

第5回自然と親しむ子ども山登り教室が 始まりました！

今年も、「自然と親しむ子ども山登り教室」が始まりました。今年も、参加申込の受付を開始したあと、東日本大震災が発生したこともあり、子どもたちの参加は、少人数となりましたが、1回目の陣馬山と2回目の御岳山を無事に登り、これから少しずつステップアップして、最後の5回目には蝶ヶ岳を目指します。子どもたちの元気な様子を報告をご覧ください。

説明会(4月3日)報告

参加者 子ども2名
会員外1名
スタッフ3名、会員3名

の女子2名、中1の男子1名、小学6年生の男子1名、小学4年生の女子1名、何度も登山に参加したことがある小学3年生の男子1名の参加となる。

基本的な説明は昨年と変わらないため、説明のあとは、パソコンを使って、2年前の自然と親しむ子ども山登り教室で登った蝶ヶ岳の様子などを見ていただいた。

「第5回自然と親しむ子ども山登り教室」の説明会を実施した。

内容は、登山教室の進め方、運営体制、登山に伴う危険と回避方法、山道の歩き方、登山装備、登山の食料、パッキングの仕方、読図の基礎、登山日程の説明を行った。

今回の登山教室への参加者は、新しく2人の子どもの参加があり、昨年まで参加していた子どもたちと合わせ6人となる予定。中学2年生



説明会の様子

陣馬山(4月24日)報告

参加者 子ども2名
スタッフ4名
別働隊 会員(障害者2名、健常者5名)

今年で5回目となる「自然と親しむ子ども山登り教室」が始まった。今回は、K I君の妹の

S I ちゃんが初参加となる。最初の陣馬山は、2人だけの参加となり、少しさみしいが、すばらしい天気恵まれて、展望が期待できそう。

新宿から京王線で高尾駅に行ったが、S I ちゃんがおなかが痛くなったので、T さんが付き添って高尾駅でトイレに行く。そのため、T さんたちが予定の電車に遅れ、1本後になったが、藤野駅で予定していたバスには、全員で乗ることができた。



早速、富士山が迎えてくれた

バスで終点の和田で下車し、自己紹介とストレッチをして出発する。周囲は、春爛漫で木々の芽吹きや新緑が美しい。登山口は、民家に入っていくような狭い道で、見落としを恐ろしく思った。しかし、少し登ると、真っ白な富士山が見えてきた。足下には、タチツボスミレやチゴヨリなどが咲き、楽しませてくれる。S I ちゃんは、花にはあまり興味がないようで、キノコが大好きだった。K I 君が写真を撮ってあげている。



ニオイタチツボスミレ

エイザンスミレやアカネスミレなども咲き、梢ではヤマガラやヒガラなどの歌声が聞こえ

る。傾斜が緩んでくると一ノ尾根に飛び出す。さらに緩やかになった登山道をゆっくりと登っていく。最後の登りが始まる頃、山頂の茶店が見えてきた。すると、これまであまり元気がなかったS I ちゃんが急に元気になって先頭で登り始めた。子どもは現金なものです。



陣馬山の山頂にて

山頂からは、近くの生藤山がよく見え、その左手には6月に登る扇山が見える。その奥には大菩薩の山々が見え、遠くに南アルプスの赤石岳と荒川三山もうっすらと見えていた。富士山も、かなり淡くなったが、まだ見えていた。その左手には、丹沢の山々が連なる。そして東には、関東平野がよく見えている。最高の展望だ。山頂のベンチに座って昼食タイムとする。

桜が咲き、山頂付近も春爛漫だ。白い馬のモニュメントの前でも集合写真を撮って、下山にかかる。ここはなだらかな尾根なので、S I ちゃんと



山頂の白馬の前で

K I 君にも全盲のAさんのサポートを体験してもらおう。2人とも、しっかりとサポートしてくれていた。



明王峠に着くと、ここも桜が満開だった。サクラの木に止まったキジバトは、近づいても逃げることなく、ポーズを取っている。しばらく休んでいると、何とA Bさんがひょっこりと現れたではないか。今日は、途中で、会員の人2人に会ったので、これで3回目だ。ここからは、A Bさんも仲間に加わって、一緒に下る。

御岳山(5月22日)報告

参加者 子ども2名
 スタッフ5名
 別働隊 スタッフ1名
 会員(障害者3名、健常者4名)

第5回自然と親しむ子ども山登り教室の2回目の登山は、奥多摩の御岳山とした。

昨日はすばらしい天気、暑いくらいの1日だったが、今日は夕方から雨になる予報だ。しかし、山の天気は早く崩れるため、午後3時頃から降り出すかも知れないと思い、やや早めの行動を・・・とっていた。

松尾でつるつる温泉行きのレトロバスを下り、自己紹介の後、歩きはじめる。まだ、上空はすばらしい天気だ。日が燦々と差ってきて、暑いくらいだ。

ニオイタチツボスミレの香水のような香りを楽しみ、多くのゼンマイを見つけ、順調に下っていく。最後の急な下りも順調に下って、与瀬神社に到着する。無事に下ってこられたことを神社に感謝して、さらに駅へと向かった。

予定よりも少し早く着いたが、一本速い電車の時間を見落とし、予定どおりの電車に乗って家路についた。第1回目の登山を無事に終えることができました。みなさまのご協力に感謝いたします。

コースタイム

和田(9:45) ... 尾根上(10:45-10:55) ... 陣馬山(11:30-12:30) ... 明王峠(13:20-13:30) ... 相模湖駅(15:45)



まずは、車道歩きだが、子どもたちはゆっくりして遅れ気味だ。山道への登り口となる滝本まで行って、待つことにする。滝本では、平井川源頭部の河原に下りてサワガニを探すが見つからなかった。ただ、少し上の釜でヤマメの稚魚のような小さな魚を何匹かみつけた。

登山道に入り、ジグザグに登っていく。白や黄色のきれいな花が咲き、シャガ、ハウチャクソウ、マムシグサ、チゴユリなどがたくさん咲いている。ジグザグの登りを過ぎ、左に大きくトラバースしてから右側に折れて登っていくと、馬頭観世音に出る。この付近は、ヤマツツ

ジが群落となって咲き、見事な色合いを見せてくれる。

ここで休憩した後は、一気に山頂まで登ると、子どもたちにハッパをかける。ここからは、傾斜が落ち、緩やかな登りとなる。尾根の左から林道が合流するところに出たら、車が一台止まっていた。こんなところまで車で来ることができることに驚く。



ヤマツツジの群落の中を歩く

ここから、すぐ左の広い道を歩いても良いのだが、その上のツツジがすばらしそうだったので、上に上がる道を通って、ツツジのトンネルの中に入って行く。とにかく満開ですばらしい光景だ。ここを過ぎると広い道と合流し、緩やかに登っていく。

道の左側が開けてくるようになると、大岳山方面が見えてくる。後ろ側に見える山は麻生山のような。この付近から、植栽したもののようなのだが、シャクナゲや小さな花のツツジが鮮やかな色合いで咲いている。しかし、あまりに色が濃すぎて、園芸品種ではないかと思うが、どうなのでしょう？

傾斜が次第に強くなり、最後の急な階段を登ると、日ノ出山に到着する。この頃には、すっかり雲に包まれ、大岳山は、どんよりした雲に今にも隠れそうだった。

日ノ出山で昼食を取っていると、ポツポツと降り始めてきた。本降りになるのはもう少し先だろうと思い、あまり気にせず、みんなで写真

を撮り、御岳山を目指して下り始める。



日ノ出山山頂にて

少し歩くと、雨の降りが少し強くなってきたため、カッパを着る。このあと、雨は次第に強くなってきたため、御岳山の山頂にある武蔵御岳神社には行かないことにする。



ケーキ帽をかぶるSちゃんと食べようとするK君

御岳山山頂の宿坊の中を歩き、トイレに行きたかったこともあり、ケーブル駅まで行くことにする。ケーブル駅で、ケーブルで下りたい人と歩きたい人で分かれるつもりだったが、雨が本降りとなってきたため、全員、ケーブルで下ることにする。ケーブルで下の滝本に着くと、土砂降りのような雨が降っていた。歩いて下らないで良かった。

雨が少し弱くなったところで、下のバス停まで歩き、バスに乗車して帰宅の途に付いた。

コースタイム

松尾(9:55) ... 滝本(10:10-10:20) ... 日ノ出山(12:10-12:50)...御岳山ケーブル(14:05)

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第1回陣馬山）提出順

今年からは、妹が登山教室に入って来てうれしいです。妹は、1回目の登山で、あまり元気が無かったです。最初から、電車でおなかがいなくなってトイレに行ったり、山を登り始めてからすぐに「つかれた」と言って泣いたりしていました。でも、キノコを見つけて、テンションが上がったりしていました。もう頂上につくころには、元気いっぱい走ったりしていて、下る時は1回も泣かないで歩いていました。そして、目の見えない人のサポートもしていました。今回は、妹の初登山で、グダグダでしたが、次の登山からは、自分で荷物を持って、自分の力だけで頂上まで行ってほしいなと思いました。また、次の山登りも楽しみです。

K . I 君

今回、初めて山登りに参加することになりました。山ではきくらげを見つけ、さわってみたらプルプルしていました。そして、木の上で鳥が鳴いていました。

登っていると中に富士山が向こうがわに見えていました。頂上に着いたら、とても気持ち良かったです。わたしは、初めて目の見えない人のサポートもしました。「初めてでも上手ね」と言われてうれしかったです。

下りは石が多く山あり、急なおり道でした。

神社まで着いたら、足がすごくいくなって、とてもつかれました。山はとってもきつかったです。次の山は、ちゃんと登れるよう、がんばります。

S . I さん

山行報告

大小山(3月6日)

参加者 会員(障害者3名、健常者11名)
会員外(健常者1名)

ん生えている場所があり春の訪れを感じながらのスタートとなりました。

富田駅に全員集合し、自己紹介をした後、阿夫利神社まで住宅地の中を歩きました。本日のコースは道標がきちんと設置されていて登山口が大変分かりやすくなっていました。途中で梅の花が満開で、地面にはふきのとうがたくさん



大小山(一番左)に向けて歩く

天気がよく気温が上がっていたようで体が

すぐに温まったようです。阿夫利神社の登山道入り口にて被服調整を行いました。駐車場には十数台の車が駐車しており、結構にぎわっている様子でした。ここから左周りルート(右周りルートも有)で登り始めます。神社背面には「石尊の滝」という病気に効くことで有名な滝があるのですが、滝というより水をひいてきた竹筒という印象でした。ここで水を汲んでいる方もいました。

ほどなく男坂と女坂の分岐に出たので男坂のほうに向かいます。このあたりから岩場が始まります。時々四つんばいになりながら岩場を登っていきます。一汗かいた頃に見晴らし台に到着しました。ここからほぼ垂直の岩壁に設置された大小の文字が一番大きく見えます。この山は、昔から大天狗、小天狗の住む霊場としてあがめられているそうです。かつて信仰の山としてにぎわったそうなので目印の為に取り付けられたのかもしれませんが。電車からも大小の文字がよく見えました。



岩場のある男坂を登る

南尾根のピークに展望を眺めに登り、360度の展望を楽しんだ後、大小山のピークに向かいます。山頂からは男体山がくっきり見えました。地元の方によると冬晴れの日にはスカイツリーや新宿の高層ビル群も見ることができるそうです。続いて妙義山のピークがありそちらの方が高いので一番高いところで昼食をとることにしました。

Kさんが持参してくださった三脚を使用し、Yさんのカメラで集合写真を撮り、下りに向か

いました。今日はYさんが先へ先へ待ち構えて、写真を撮っていただきました。



大小山の山頂にて

ピークからの下山時、ロープを使用して下る場所があり、ここが本日一番の難所でしたが、皆さんのきめ細やかなサポートで無事に全員クリアしました。落ち着いたころ、洞窟がありここで一息つきました。ライトを取り出し「洞窟の奥まで行ってみよう！」と入れ替わり立ち代り、出たり入ったりしばし童心に返ってミニ探検を楽しみました。



梅がきれいに咲いていた

その後の下りはペースもあがり、スタート地点の阿夫利神社まで予定より30分くらい早く到着しました。

荷物を整理し一息ついた後、駅に戻りましたが途中で美術館に立ち寄るメンバーと別れました。予定より1本早い電車に乗ることができましたが栃木駅で予定通りの電車に乗り帰路につきました。

本日は皆さんのすばらしいチームワークで無事に山行を終えることができました。会計を担当してくださったNさん、写真を撮ってくだ

さったYさん、サポートをしてくださった皆様本当にありがとうございました。 記：竹内

コースタイム

百蔵山(4月10日)

参加者 会員(障害者7名、健常者13名)

これまで地震による自粛を行っていたため、今回が約1か月ぶりの登山で、2011年度最初の共に楽しむ登山となった。

天気予報は良かったのだが、かなり雲が多く、猿橋駅に着くと、目指す百蔵山は雲に隠れて見えない状態だった。

今回は、入会后初参加の方が3人いたので、新鮮な雰囲気の中で、自己紹介をして出発する。

歩道橋で国道20号線を超え、中央高速道路の下を通過、登山口へと向かう。麓の桜は、ほぼ満開だった。スポーツ施設の駐車場を過ぎ、百蔵浄水場まで、次第に傾斜が急になる舗装された車道を登る。この頃、ポツポツと雨が降りだした。予想していたよりも、かなり寒かったこともあり、雨具の上だけを着る。

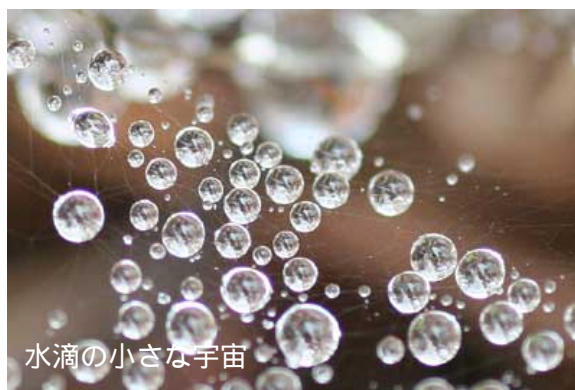
休憩の後、さらに登っていくと、東コースと西コースの分岐に出る。持ってきた昭文社の2008年版地図では、この付近に分岐はないのだが、すぐに登山道となる東コースを登ることにする。

足下にタチツボスミレがちらほら咲いているが、今年は寒い日が多かったため、春が遅いようだ。本来なら、もっとたくさんスミレの仲間が見られるのに。

雨はすぐに上がり、曇り空の中を登っていく。そこかしこに、クモの糸に付いた水滴が見られる。Oさんと私は、写真を撮りながら登ってい

富田駅(10:15)...阿夫利神社(11:00)...見晴らし台(11:30)...南尾根ピーク(11:45)...大小山...妙義山(12:00-12:50)...阿夫利神社(13:50)...富田駅(14:30)

く。まだ咲き始めたばかりだろうか、足下にヒトリシズカが咲いていた。



登山道は、次第に傾斜が強くなり、ロープも出始めた。しかし、みんな順調に高度を稼いでいく。急登が終わり、傾斜が緩くなると、扇山への分岐を過ぎ、すぐに山頂に到着した。



天気が良ければ富士山がよく見えるのだが、残念ながら霧に被われていて、見ることはできなかった。ただ、うっすらとではあるが、麓の高速道路などが見えた。

昼食後、集合写真を撮って、西コースを通過して下ることにする。

コガラのヒーツーヒーツーというキーの高いさえずりが聞こえた。とにかく、この山はアブラチャンが多い。黄色の花が鮮やかだ。キブ

シの花や山吹の花も咲いていた。足下には、シュンランやイカリソウも咲いていた。相変わらず、クモの糸に付いた水滴も多く、写真を撮りながら下る。



東コースとの合流点を過ぎ、さらに百蔵浄水場を過ぎると、桜やレンギョウが咲く公園に出る。今日は、予定よりも少し早く下りてきたので、有名な猿橋を見物に行くことにする。

中央高速道路を通り過ぎ、左に曲がるが、曲がった後は、川に下る道ではなく、左側の登りになった道に行く。しばらく歩き、桂川を渡ると、サルが兩岸から橋桁を伸ばして、かけたといわれる年代物の猿橋があった。この付近は、

羅漢寺山(4月14日)

参加者 会員(障害者1名、健常者3名)
会員外(健常者2名)

今日はすばらしい天気恵まれて、空には雲一つない。甲府駅に降り立つと、北西側の桜の花の向こうに甲斐駒と鳳凰三山がよく見えていた。バスターミナルの3番乗り場で、昇仙峡行きのバスを待つ。予定していた9時のバスは、羅漢寺山の西側の道路を通って、昇仙峡滝上まで行くバスだった。バスの乗客は、私たち6人だけで、貸切状態だった。

予定では、ロープウェイで羅漢寺山まで上がることにしていたが、メンバーが少なく、参加してくれた若者たちには物足りないだろうと

断崖絶壁のゴルジュとなっているが、昔のサルは、よくこんなところに橋を架けたものだと感心する。



猿橋を見た後は、国道20号線を歩いて猿橋駅に到着する。朝は、見えなかった百蔵山が、今はしっかりと見えていた。久しぶりの登山、お疲れさまでした。

コースタイム

猿橋駅(9:20)...百蔵浄水場(10:05-10:15)...百蔵山山頂(11:50-12:30)...猿橋(14:50-15:10)...猿橋駅(15:35)

思い、歩いて登ることに変更した。

獅子平付近からは、希望の場所で、どこでも止まってくれるということなので、夫婦木神社を過ぎて、羅漢寺山登山口で下ろしてもらった。

今回は、大学2年生になったばかりの初々しい若者が2人参加した。その内の一人、Kさんは立教大学のコミュニティ福祉学部で、N教授を良く知っているとのこと。Kさんを紹介してくれたYさんとは、自然の中のサバイバル学校の仲間だそう。Oさんは、Kさんの友だちで、成城大学(申し訳ありません。ちょっとろ覚えです)に通っているとのこと。2人とも、明るくて、会話が耐えませんでした。

暖かく、春爛漫の今日は、アオダイショウも現れ、ヤマガラやヒガラ、ホオジロ、ウグイス

などのさえずりも聞こえた。アブラチャンやダンコウバイは、一面を黄色に染めるほど、満開だった。

北側の尾根から羅漢寺山に登るコースは、広く、車高の高い4輪駆動なら登れるほどの道だった。



羅漢寺山の山頂にて

パノラマ台に着くと、すばらしい展望が広がっている。たどり着いた正面に、真っ白な富士山がしっかりと見えている。右手には、甲斐駒ヶ岳、アサヨ峰、仙丈岳、鳳凰三山、農鳥岳までの南アルプスが見えている。大学生たちも感動していた。すぐ北側には、茅ヶ岳や大刀岡山がよく見えている。



弥三郎岳の山頂直下を登る

ロープウェイの駅でトイレを借り、ここから弥三郎岳を往復することにする。最初は歩きやすい道だったが、山頂のすぐ手前は、岩に階段が切っており、丸い岩の両側はスッパリ切れていて、高度感があり、緊張させられる。丸い岩から一段上がったちょっと狭いところに、三角点があった。展望が良く、高度感もかなりある。北側の遠くには、奥秩父の金峰山がよく見えて

いた。しかし、近くの水ヶ森付近で、煙が上がリ、消防車やヘリコプターが忙しく動いていた。きっと山火事だったのだろう。

弥三郎岳から一旦、ロープウェイの駅に戻り、白砂山を目指す。白砂山からは今登ってきた弥三郎岳がよく見える。弥三郎岳は、しっかりとした花崗岩の岩山だった。山頂は、展望がよいが、今日は暑いくらいなので、少し戻って日影で昼食とした。今日は人数が少ないということで、Mさんがコーヒーを沸かしてくださった。

次は、白山展望台に行く。ここは、花崗岩の砂が一面に広がり、以前登った日向山に似ていた。やはり展望は良く、南アルプスがよく見える。



風化した花崗岩の白砂が眩しい白山展望台

さらに獅子平分岐に着いて、どちらに下るか迷ったが、バスの待ち時間が少ないほうにしようとして、予定どおり昇仙峡口バス停側に下ることにする。



ムラタデバ

太刀の抜き岩を見物し、登山道を下っていく。すぐに林道に出て、下っていくと、林道が二つに分岐している。案内板は、左側を指し、行き

先の名前があったが、持っていた地図に出ていないので、もしかしたら破線の厳しい道になるかも知れないと思い、右側の道を下った。すぐに、小型トラックで上がってきた方がいたので、聞いてみたら、この道は昇仙峡口（長土呂橋）のバス停には行かないが、3キロほど下ると、バス路線に出るとのことなので、そのまま下っていく。途中でまた林道が分岐していたが、今度は左側を進み、しばらくすると、比較的広い谷間の集落に出た。下を見下ろすとバス停があったので、そこを目指して下っていく。着いたバス停は、吉沢農協というバス停で、昇仙峡口より、かなり南側（甲府駅側）だった。

湊沢岳(4月29日～5月1日)

参加者 会員(障害者5名、健常者9名)
会員外(健常者2名)

4月29日

前日の夕方、新宿を出て、松本に泊まったグループや、夜行バスで上高地に来たグループ、前日のうちに上高地に入り横尾などで泊まった人たちなど、さまざまな方法で、上高地に集合した。

26日の夕方に、湊沢で雪崩があったため、横尾から先に入山規制がしかれたが、今日の朝、解除になったという情報が、横尾で待っているIさんから携帯電話に入ってきた。これで、予定どおり、登山を進めることができそうだ。

上高地で前泊したYさんとバスターミナルで合流し出発する。河童橋から見る穂高連峰は、青空の下、真っ白な峰を輝かせ、すばらしい風景を見せてくれる。今日、明日と天気予報がよいので、気持ちよい登山になるのではと期待が膨らんだ。しかし、山々は真っ白で、2005年に来た時とは、全く様相が違っている。雪崩

偶然来た甲斐市役所の方が、どうして道を間違ったのか聞いてくださり、今度整備しておくと言ってくれた。

ちょっとハプニングがありましたが、あたたかな一日を楽しく歩くことができました。

コースタイム

羅漢寺山登山口(10:00)...羅漢寺山パノラマ台(10:55-11:10)...弥三郎岳(11:30-11:35)...白砂山(12:05-12:50)...白山展望台(13:10-13:20)...太刀の抜き岩(13:35)...吉沢農協バス停(14:35)

の情報と共に、今年は非常に積雪が多いので、注意が必要だ。



河童橋から見た奥穂高岳

明神を過ぎ、徳本峠との分岐に行く予定が、道を真っ直ぐ進んでしまい、河原に出てしまった。ルートが変わったのかと思ったが、間違ってきてしまったようだ。途中から、林道に上がり、修正する。

徳沢への林道もところどころ凍っていて、滑らないように注意しながら歩く。すばらしい天気だったが、この頃から穂高方面に雲がかかって、前穂が見えなくなっていた。

徳沢でKさんと合流し、横尾でIさんと合流する。全員揃って、湊沢へと向かう。横尾大橋を渡って、高々と聳える垂壁の屏風岩を左手に見て、山腹を登っていく。ここからは、ほとんど

ど雪の世界だった。

夏道通しに歩き、本谷橋付近で、横尾谷に下りる。2005年の時は本谷橋が出ていたが、今日は全く見えず、本谷橋付近までデブリ(雪崩の跡)が来ていた。

ここからは、デブリの末端や端を回り込むように登るようになる。涸沢側からも横尾本谷側からも、ものすごく大きなデブリが押し寄せていた。

涸沢に入り、デブリの端を登っていく。この時期は、通常なら大きな雪崩は終わっているはずだが、今年はまだまだ注意が必要だ。ブロックの形のはっきりした新しい雪崩れもある。本流の雪渓をえぐるように流れ落ちた大きなデブリがたくさんある中を登っていく。

曇り始めていた天気は、雪が降り始め、霧に包まれるようになってきた。涸沢ヒュッテの旗が見えたのは、100mほど手前になってからだった。

ヒュッテで受付を済ませ、部屋に入る。夕食の時、オーナーの山口さんから話があり、今年の涸沢は例年になく残雪が多く、4月15日に小屋開けの準備に入ってからさらに積雪が増えたそうで、こんなことは初めてのことだったらしい。

入山規制があったことや非常に多い残雪のことを念頭におき、明日は雪崩に注意して登らなければならないことを肝に銘じて、早々に休んだ。

4月30日

朝起きると、奥穂や前穂などの山頂が見え、まずまずの天気だ。小屋のテレビで見ると、松本市の天気予報は、朝のうち晴れで、9時から曇りになっていた。早く出発したかったが、小屋の朝食が6時のため、6時50分の出発になってしまった。

テント場を過ぎ、少し行くと、長野県警の方が立っていて、雪崩ビーコンを持っているか聞

かれた。持っていないと、本来許可できないが、自己責任でということで、通してもらった。登るルートは、奥穂側からの雪崩の心配があるので、小豆沢本流の一番低いところではなく、できるだけ涸沢岳側を取るようアドバイスされた。しかし、すでに登った人たちは、本流側を登っていた。



カールの底から急な登りにかかった頃、Mさんが腰が痛いということで引き返した。傾斜が緩くなったところで、休憩する。雪崩の危険性があるところを登るため、これ以降は白出のコルの穂高岳山荘まで休憩しないことを告げる。

傾斜は緩くなったが、大きなデブリの上を登るため、決して気は抜けない。デブリを過ぎ、ザイテングラートのすぐ左側を登る。傾斜の緩い小豆沢の本流を登る人はいなくなり、ザイテングラート側の急斜面にトレースが付いている。



我々のゆっくりペースに道を空けると言うクレームをいう人がいたようだが、雪山はどこでも登れるため、体力のある人は隣を抜いてい

ってくださいと言う。それでもなかなかそうする人がいないので、私がとなりにもう一つトレースを作ることにした。人のトレースを使った方が確かに楽なのだが、雪山に来るパーティーは自らトレースを作ることができなければならないと思うのだが、経験豊かなリーダーがあまりいなかったのではないかと思う。



前穂高岳を暗雲が覆い始めた

急斜面を登っているうちに、前と後の差が付いてきたが、急斜面を超えるとコルは近いので、前のグループはそのまま登っていく。そして、最後のトラバースにかかると、視界を遮る地吹雪に見舞われた。まずは私がコルにつき、KTさんたちを迎えに行く。



コルへの登りが続く

コルに着いたKTさんたちと別れ、後のグループを迎えに行く。どうも、Fさんが雪山が不慣れで、足を取られて遅れているようだった。それでも、ゆっくり登って、全員白出のコルに到着した。しかし、この頃には、すでに視界がかなり悪くなっていた。

穂高岳山荘に着くと、30分以上先に着いたMMさんたちが外で震えて待っていた。中に入

って待っていて良かったのにも思ったが、小屋がやっていないという話をした人がいたらしい。除雪車が作業をしているのに、そんなはずはないのだが、間違った情報には困ったものだ。

すぐに小屋に入り、暖を取る。ここで1時間以上ゆっくりしたが、もっと早く下るべきだったことが一つの反省点だった。



白出のコルから見た涸沢岳方面

小屋の外から入ってきた女性の登山者が、霧が深くて下山ルートが分からないので、一緒に下って欲しいと言ってきた。了解したが、結局は、我々より後に下る人たちと一緒に下ることにしたとのことだ。

下る方向は決まっているので、小豆沢へと入っていく。同じ小豆沢でもできるだけ奥穂側に近づかないように下っていく。

上の方からさらさら小さな表層雪崩が起きている状態で、少しでも早く下らなければならぬ。しかも、大きな雷が聞こえ始めてきた。雷の音で雪崩が誘発されないか、さらに心配が深まる。

私が先頭でしばらく下った頃、上の方からHKさんの「助けてー」という声が聞こえた。何があったのかと思い、他の人たちには先に下っていてもらい、私は上に登り返していく。HKさんは、FさんとHさんが厳しい状況だという。さらに登って追いついてみると、体力的にばてているような状態ではなかったので、ザイルを出して3人がアンザイレンして下ることにした。その後は順調に下り、前のグループに追いついた。

前のグループでは、下りの苦手なKGさんが腰が引けて早く下ることができないでいた。KGさんにスリングを繋ぎ、Iさんに持っていたいて、安全だから思い切って下りましょうと声をかけながら下る。それでも時間がかかったが、涸沢カールに降り立ち、雪崩の恐怖から開放された。

5月1日

昨日の下りから降り始めた雨は、夜半から本降りとなっていた。今日は下山だが、雨で雪崩が誘発されないかが心配だ。

今日は傾斜が緩いので、大丈夫だと思っていたが、KGさんは緊張して足がスムーズに出ていない。それで、ザックをKRさんに持ってもらうことにする。しかし、重すぎるので、中身を分担しようと意見が出たが、沢の途中にいるのは常に雪崩の危険が伴うため、荷物を分担しあう時間を使いたくなかった。それで、雪の上をザックを滑らせていけば良いと思い、KGさんに了解を得て、私がザックを引っ張っていくことにした。さすがにザックは雪の上を順調に滑ってくれた。

雪崩が起きないか、常に後や左右に気を配って下ったが、ようやく横尾本谷との合流点とな

り、本谷橋まで来た。まだまだ転落などの心配はあるが、雪崩の恐怖からは開放された。

横尾尾根をトラバース気味に下る道から河原に下りてホッと一安心。雨も小降りになってきた。

横尾で、これからさらに一人で槍ヶ岳を登るというYさんと別れ、15人は上高地へと向かって歩きはじめた。サル姿を見たり、ゴジュウカラの囀りを聞いたりしながら、上高地に到着し、アルペンホテルで汗を流して、新島々行きのバスに乗り込んだ。

今回は、計画そのものを含めて、反省点が多々あったが、会員外で参加したお二人から「楽しかった」と言っていただけで、救われた思いだった。厳しい状況の中で、協力して下さったみなさまに心から感謝申し上げます。

コースタイム

4/29 上高地(6:55) ... 徳沢(9:20-9:30) ... 横尾(10:35-11:00) ... 本谷橋(13:05) ... 涸沢(15:20)

4/30 涸沢(6:50) ... 白出の科尔(10:20-12:40) ... 涸沢(16:30)

5/1 涸沢(6:40) ... 本谷橋(8:15) ... 横尾(9:35) ... 上高地(13:20)

大持山・小持山(5月15日)

参加者 会員(障害者6名、健常者10名)
会員外(健常者1名)

今日は、すばらしい天気恵まれた。横瀬駅に全員集合し、タクシーに分乗して一の鳥居に向かう。一の鳥居の駐車場は満杯だった。

自己紹介の後、妻坂峠に向けて登り始める。瑞々しい新緑が逆光に映えて美しい。

妻坂沢をつめて、峠への登りにかかると、フ

デリンドウがいくつが咲いていた。マムシグサは、きれいな緑色の鎌首を持ち上げている。峠近くにはニリンソウも咲いていた。峠手前の古かった栈道は、新しいものになっていた。

峠には道祖神が一つ、佇んでいる。木々の間から武甲山がよく見えた。足下には、カキドオシやカントウタンポポが咲いている。ひと休みしてから大持山への登りにかかる。ここはかなりの急登だ。

今回のコースは、比較的植林が少なく、雑木林が多かった。新緑のやわらかな緑は、青空に映えてひととき美しくなる。急な登りも、新緑

の木々に癒されて、順調に登っていく。標高1000mを過ぎると、傾斜はグッと落ちる。ミツバツツジが咲き、サクラもまだまだ咲いている。新しく開いたばかりの葉が、逆光に葉脈をすかせ、とてもきれいだ。周囲には、カラマツ林もある。同じ植林でも、杉や檜と違ってカラマツの林は明るい。



妻坂峠からの急斜面を登る

周囲が開けて、後の武川岳がよく見えるようになる。西武ドームも光っていた。ここは、大持山と鳥首峠への分岐だ。見晴が非常に良く、新緑の山々がとても美しい。アセビの花もたわわになって咲いていた。



大持山山頂にて

ここから少し登ると大持山の山頂だ。山頂で昼食タイムとする。七跳山や坊主山など雲取山に続く奥多摩の山々がよく見えた。さらに右奥は、奥秩父方面だろう。遠くまでよく見えた。

大持山から小持山への稜線は、切れたところや岩場が何度も出てきて、気を使う場所だが、変化があっておもしろい。途中の小さなピークからは、両神山もよく見えた。大持山から続く尾根は、新緑やサクラの花などで、まさに春爛

漫だ。



大持山から小持山への稜線は厳しい

足下にピンク色の花を見つけた。イカリソウかなと思って近づいてみると、何とカタクリだった。今回、初めて見た一輪だけのカタクリに感激。匂は過ぎていたけど、30歳くらいかなという声上がる。途中で、もう一つだけカタクリの花を見つけたが、そちらは花卉の先がすでに茶色になっていて、何歳くらいだったのだろうか？



まだ咲いていたカタクリ

ミツバツツジとは違うピンク色のツツジは、アカヤシオだったようだ。花は終わりかけだったが、何度か出会うことができた。

小持山に着くと、正面に武甲山がどっしりと見える。手前のサクラの木が、山の雄姿に花を添えていた。ここでも集合写真を撮って、下山にかかる。途中でコゴミを見つけた。

シラジクボからは、武甲山を巻いて長者屋敷の頭に抜ける巻き道を使うことにする。新しい昭文社の地図では、破線になっていたのが、危険なところがないか心配だったが、外傾して滑りそうなどころもあったが、ほとんど問題なく

歩くことができた。歩く人が少ないので、破線になっているのだろうか？



長者屋敷の頭に着くと、今登ってきた子持山がよく見える。少し下ると、トラバースした植林帯の道もよく見えた。なだらかな尾根から急な斜面をジグザグに一気に沢に下る。ここまで元気だったMさんが、疲れたということでアミノバイタルやツムラの薬などを飲み、元気を取り戻す。

途中、沢に架かっていた橋は今にも崩れ落ち

東日本大震災による自粛などで、高根山・寝姿山、リーダー養成コース（巻機山）、新川下流ミニハイキングが、中止となりました。また、天城山が雨のため中止となりました。

ハイキング報告

第15回ミニハイキング（高津八福神めぐり）（4月2日）

参加者 会員(健常者3名)
会員外(健常者4名)

この日のコースが散歩道の一つという地元のYさんの案内と解説で誠にスムーズに歩くことが出来た。大和田駅を經由する計画コースを一部変更して、より安全で桜の並木も楽しめるかもしれないコースとした。

最初の経路地「野村グランド」は「IBMグランド」に変わっていたがラグビーのコートが二面のほか緑地も豊かな広いグランドだっ

そうなため、橋の下に飛び石づたいに付けられた丸太の橋を渡って対岸に移る。林道に出ると、あとは思い思いのペースで橋立鍾乳洞を目指す。ここの茶店でトイレを借りたり喉を潤したりして休憩し、予定より1本早い17時45分の電車に間に合うように出発する。

切符を買っていたら、ぎりぎりになってしまったが、電車に乗り込んで、帰路に就いた。秩父のそば屋に、参加者のほとんど全員が立ち寄り、空腹とエネルギーを満たして、西武線の電車に乗り込んだ。

コースタイム

一の鳥居(8:25)...妻坂峠(9:15-9:25)...大持山(11:55-12:30)...小持山(13:30-13:40)...シラジクボ(14:20-14:35)...長者屋敷の頭(15:15-15:25)...林道(16:25-16:35)...橋立鍾乳洞(17:10-17:30)...浦山口駅(17:40)

た。中にはサッカーとラグビーをしている若者が大勢いた。



入り口近くの庭に枝垂れ桜の大木がもう満開の花をつけていた。まだ蕾の周囲の大きな桜

と対照的。ここから15分ほどの自衛隊習志野駐屯地に沿って観音寺をめざした。駐屯地の中の草原には緑の芽吹きでいっぱいの柳の木が多く見られた。



新川沿いの公園にて

観音寺では本堂で法事の最中らしいお経の

声が聞こえてきていた。ここでも早くも桜が咲いていた。

新川沿いのテニスコート周りの公園めぐして歩き始めたがなかなか着かない。八千代市の「名所」の桜並木(まだ咲いてない)を経てやっと到着。

新川の土手に腰掛けて待ちかねた昼食タイム。一時間ほど休み、現地解散した。

記：水野

コースタイム

八千代台駅(10:30)...観音寺(11:10)...新川沿いのテニスコート(12:00-13:00)解散

第27回ふれあいハイキング(常陸風土記の丘)(5月7日)

参加者 会員(健康者6名)

関東南岸を低気圧が通るため、雨の心配があったが、途中で霧雨があった程度で、ほとんど降られずに歩くことができた。

石岡駅で、風土記の丘のパンフレットなどをもらい出発する。

まずは、常陸国分寺跡に向かう。石岡は、常陸国の国府のあった場所で、旧跡や史跡が多く点在する。天平勝宝4年に建立された常陸国分寺には、都々逸坊扇歌堂などもあった。門から入ってすぐにある大銀杏もすばらしい。

次は、国分尼寺跡に向かう。国分尼寺跡は、ほとんどの県で残っていないのだが、現在も残っている石岡の国分尼寺跡は、極めて貴重だという。広い草原で子どもたちが遊び回るには、最適の場所で、どこに何があったのかは分からないが、貴重なところを訪ねることができて良かった。

次は、陣屋門に向かう。府中中学校の校庭の中にあるのだが、立派な門だった。

陣屋門を出ると、きれいに整備された端正な住宅街を抜ける。そして、入口に門のある常陸国総社宮に入る。両側の石灯籠は、地震の影響で倒れたようで、半分以上が台座だけになっていた。ここに来る途中にあったお墓も、倒れてしまったものをいくつか見つけた。

総社宮では、結婚式が行われていた。若い女性の御子さんがいたので、こちらの女性2人と男性2人が写真を一緒に撮らせていただく。この写真は、あとで送って欲しいとか。



恋瀬川の畔にて

ここからは、車道などを通して、恋瀬川に向かう。恋瀬川のサイクリング道路を歩くが、残念ながら筑波山は見えなかった。途中で霧雨が降ってきたが、すぐに止んだ。まだ、11時過

ぎだが、おなかが空いたので、昼食とする。Tさんは、ヨモギなどを取っている。私は、ヤマトシジミという蝶の写真を撮ったり、集合写真を撮ったりする。



ポタン桜の花弁でピンクに染まった地面

さらに恋瀬川沿いに歩く。水田には、水が張られ、田植えが終わった田んぼもあった。オオヨシキリやモズ、ホオジロ、ヒバリなどの声を聞きながら、恋瀬川をあとに、常陸風土記の丘に向かう。風土記の丘の有料施設には入らず、金山池周辺を歩いた。フジが美しい。青だけでなく、白やピンクのものもあった。また、ポタン桜の花びらが地面に落ち、一面をピンクに染めている。しだれ桜は終わっていたが、満開の時は見事だろう。古代ハスの大賀ハスは、今は枯れた状態だが、夏にはきれいな花を咲かせてくれそうだ。

日本一大きいという獅子頭展望台は、地震の影響でゆがんだのか、入ることができなかった。会津の古民家は、江戸時代の家を復元したもの

だそうだ。Yさんが、「なつかしいな〜」としみじみ言っていたのが印象的だった。

風土記の丘を出て、石岡駅に向かうバスに乗ろうとしたが、土曜日は運行していないようなので、村上のバス停まで歩いていくことにする。バス停までの地図がないので、無事に付けるか不安だったが、間違えることもなく、一発でたどり着いた。



フジが満開だった

当法人の事業は、山や自然を楽しむことが多いのですが、今回は歴史散歩でした。自然豊かな石岡も楽しめ、遠くまで来たかいた一日でした。

コースタイム

石岡駅(9:15)...国分寺跡(9:30-9:40)...国分尼寺跡(9:55-10:00)...恋瀬川(11:00)...昼食(11:20-11:45)...常陸風土記の丘(12:20-13:15)...村上バス停(13:35)

講習会報告

岩登り技術講習会(鷹取山)(4月17日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

週間予報では雨だった今日の天気は、だんだん予報が良くなり、結局は素晴らしい天気に恵まれた。

桜並木の桜はもう終わりかけていて葉桜と

なっていたが、まだまだきれいだった。湘南の海も見え、山道にはウラシマソウやタチツボスミレがたくさん咲いていた。ウグイスやシジュウカラ、コジュケイのさえずりが何度も聞かれた。コジュケイは帰る時に、姿も確認できた。

講習は、まずは子不知の南面で三点支持での上り下りなど基本的なことを練習する。続いて、

級ルートにロープをセットし、全員が登る。久しぶりに岩登りを行った全盲のNさんも、岩登り初めてのYさん、Kさんも登り切り、屋外では初めての岩登りだったOさんも登った。何度も経験しているTさんには、確保も手伝っていただいた。

昼食タイムは、Tさんがコンロとコッヘルを持ってきてコーヒーを振る舞ってくださった。Nさんのプチトマトとコーヒーもおいしかった。

昼食後は、後浅間に移動し、ビギナーフェースのNO.3ルートで練習する。ビギナーフェースといっても子不知の 級ルートより難しい。

取り付き付近で苦労していたが、そこをクリアした人は、終了点まで登ることができた。全盲のNさんも、しっかりと登り切り、クライミングシューズを買おうかなと張り切っていた。



岩登り技術講習会（日和田山）（5月8日）

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)

今日は、初夏を思わせるあたたかな一日だった。ゴールデンウィークの最終日のため、岩場は比較的空いていた。



それでも、男岩、女岩とも、代表的なルートはロープが垂らされていた。

我々は、女岩を中心に登ることにする。その前に、8の字結びなどを覚えてもらい、まずは、オーソドックスな3級ルートを登る。ここは、難なく全員クリア。ここで、少し早いですが、昼食タイムとする。

昼食後は、午前中に登ったルートのすぐ右のフェースを登る。ここは4級 - 程度だろうか？ここも全員クリア。次は、フェースの一番右にあるクラックをレイバックで登るルート。ここは、Fさん、Hさん、Oさん、そしてAさんが登る。ここは4級+程度だろうか？

最後は、全盲のNさんから要望のあったチムニールートだ。ここも、スピーディーに登る人、時間のかかった人など、いろいろですが、全員がクリアした。



汗ばむ陽気の中、ほどよい疲れで、岩場を後に高麗駅に向かった。

その他事業報告

定期総会を開催しました

5月28日に東京都世田谷区の上馬地区会館で、第8回定期総会を開催しました。出席は、当日の19名と書面委任52名を含む71名で行われました。(賛助員の方1名の参加があり)

全ての議案が承認されました。また、今回は役員改選となり、8年間に渡って副理事長を務めてくださった松井理事が退任されることになりました。当法人の設立から長い間、大変お世話になり、感謝申し上げます。また、6年間、監事を務めていただいた鎌田氏、4年間務めて

いただいた平野理事、吉田理事も退任となりました。長い間、裏方の仕事をありがとうございました。

新たに、理事に山口雅章氏、竹内氏、佐藤啓司氏が、監事に水野氏が就任されました。これからの法人の運営を、留任となった箕輪氏及び理事長と力を合わせて進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

詳細は、次回の機関誌と共に送る第8回定期総会議事録を参照ください。

社会福祉法人八千代市身体障害者福祉会の会報(はばたき)で当法人を紹介させていただきました

社会福祉法人八千代市身体障害者福祉会の「はばたき職業センター」の方から原稿の依頼をいただき、八千代市身体障害者福祉会発行の会

報『はばたき』の、悠々堅歩のコーナーで、当法人を紹介させていただきました。

各種連絡事項

八千代市1%支援制度を多くの方に活用していただけてください

「自然と親しむ子ども山登り教室」に要する経費の助成を申請した八千代市1%支援制度の支援対象団体公表が、6月15日発行の「広報やちよ」で行われます。その日から8月16日までが納税者の方からの選択届け出期間となります。1%支援制度を多くの市民に広めよ

うと積極的に活動していただいている方もいますので、ぜひ八千代市民の会員のみなさまにご協力をお願いすると共に、知り合いの方に八千代市在住の方がいましたら、ぜひお声かけいただき、この制度が継続されるよう、ご支援をお願いいたします。

会員情報

新入会員及び復帰された会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新しく入会及び復帰されましたので、よろしくお願いいたします。(敬称略)

正会員 9名

退会者及び賛助員へ変更された方のお知らせ

12月以降、7名の方が退会されました。また、1名の方が賛助員に変更となり、2名の方が休会されました。

編集後記

・理事長のつづやき

東日本大震災という大変な事態が発生してしまいましたが、みなさまのご家庭やご親戚、ご友人などで被害に遭われた方もいらっしゃると思います。謹んでお見舞い申し上げます。当法人としても、少しでも苦しんでいる方たちのお役に立ちたいと思っているのですが、直接的な支援を法人として行うのは難しいため、登山などの折りにあまった交通費などを、義援金として寄付をしたいと思い、すでに始めていま

す。5月末の段階で、約42,000円集まりました。また、昨年度の正味財産となった約91,000円から50,000円ほどを義援金に回します。わずかですが、日本財団のROADプロジェクトに寄付をさせていただきます。

来年度は、少しでも東北地方の経済活動に寄与したいと思い、東北地方の登山を多く計画します。みなさまのご要望や考えをお知らせください。

・次回発行予定は、9月です。

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

